

2019年10月9日(水)

Drone Fund

Drone Fund、ブラジルの農業ドローン・スタートアップ ARPAC へ出資を実行

Drone Fund（本社：東京都港区、代表：千葉 功太郎、大前創希）は、ドローンを利用した農業用ソリューションを展開する ARPAC（本社：ブラジル・ポルトアレグレ、CEO：Eduardo da Costa Goerl 以下、アルパック）へ、Drone Fund 2号（正式名称：千葉道場ドローン部2号投資事業有限責任組合）からの出資を実行しました。

今回の出資のポイント

1. 農業大国ブラジルの農業市場に特化したドローン・スタートアップへの出資
2. Drone Fund 初の中南米への出資



写真提供：アルパック

【今回の出資について】

全世界の農業輸出の約 7%を占めるブラジルは、EU、アメリカに次ぐ世界第 3 位の農業大国です。サトウキビやコーヒーの生産量は世界一を誇ります (*1)。広大なサトウキビ畑や、傾斜地に位置するコーヒー畑などでは人手が不可欠なため、精密農業の導入によるブレイクスルーが大いに期待されています。

アルパックは、2014 年、ブラジルに設立された農業用ドローンのスタートアップです。サトウキビ畑とコーヒー農園をターゲットとしたドローンによる農薬・益虫散布のソリューションを、2018 年からサービス展開しています。アルパックのドローン・ソリューションは手作業と同じコストで約 80 倍も速く作業ができるとの試算もあり、ブラジルで加速するアグリビジネスの筆頭格となっています。

Drone Fund では初となる中南米への投資実行となりました。日本では、かねてから農業分野における商用ドローンの利用が期待されており、2024 年には商用ドローンのサービス市場の 20%を占めるとの予測もあります (*2)。農業大国のドローン・スタートアップへの出資を契機として、農業分野におけるドローン利用を活性化させていくとともに世界規模でのドローン前提社会の実現に向け、今後も取り組みを進めて参ります。



写真提供：アルパック

【アルパックについて】

アルパックは 2014 年、ブラジルのサンレオポルドに設立されたドローン・スタートアップです。ドローンを用いた農薬散布・益虫散布などの化学的・生物学的な手法、および高精度の画像サーベイを通じて、より効率的な営農支援ソリューションを提供します。

- 名 称：ARPAC（アルパック）
- 代表者：Eduardo da Costa Goerl（共同創業者、CEO）
- 所在地：Rua Riveira, 270. Petrópolis. Porto Alegre. Rio Grande do Sul. Brazil
- URL：<http://www.arpacbrasil.com.br/>

【Drone Fund 2 号について】

Drone Fund は、ドローン関連のスタートアップに特化したファンドとして 2017 年 6 月に設立されました。「ドローン前提社会」と「エアモビリティ社会」の実現をテーマに投資を行っており、1 号ファンドでは、総額約 16 億円にて資金調達を完了、22 社のドローン関連のスタートアップに投資を実行しました。2 号ファンドは、総額約 52 億円の調達を実施し、ドローン、エアモビリティの企業への投資を加速させています。

- 略 名 称：Drone Fund（ドローンファンド）
- 正式名称：千葉道場ドローン部 2 号投資事業有限責任組合
- 運営会社：鎌倉インベストメント株式会社
- 代 表：千葉功太郎、大前創希
- 所 在 地：東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 6F
- 事業内容：ドローン、エアモビリティ関連への投資及び協業支援
- ウェブサイト：<https://dronefund.vc/>

*1 農林水産省「ブラジルの農林水産業概況」2017

*2 インプレス『ドローンビジネス調査報告書 2019』2019

【本発表資料のお問い合わせ先】

Drone Fund 広報担当：pr@dronefund.vc

プレスリリース内画像素材：

<https://www.dropbox.com/sh/y9ejexg9ffr6fpy/AADkzB6allEGcEOmTqlbeCPSa?dl=0>